



令和6年度

青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例集





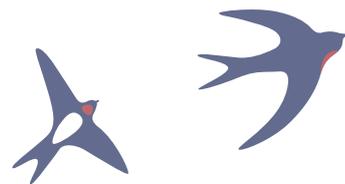
はじめに

次代を担う青少年が心身とも健やかに成長するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会の役割も重要です。地域の方々とのふれあいや体験の中で、青少年は多様な価値観に触れ、社会性を身につけていきます。

本事例集では、青少年健全育成地区委員会等が主体となって地域ぐるみで青少年を健全に育成する取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として紹介しています。また、より多くの取組を知ってもらうことを目的に、モデル事例に加え、その他の取組事例も掲載しました。

これらの取組事例を参考にさせていただくことで、各地区の青少年健全育成に関する活動の活性化や広がりにつなげていただければ幸いです。

この冊子が皆さまの今後の活動の一助となることを願っております。



目次

■ モデル事例等の紹介

モデル事例 1 大田区青少年対策田園調布地区委員会

令和5年度田園調布地区青少対講演会「武隈親方のお相撲教室」…………… 1

その他の取組事例 1 青少対まつり…………… 5

その他の取組事例 2 青少対バスツアー～三浦半島～…………… 6

モデル事例 2 江戸川区青少年育成下小岩地区委員会

下小岩たんけん隊～屋形船たかはし丸に乗ろう～

新中川の水辺の生き物と治水の歴史について…………… 7

その他の取組事例 子ども防災体験～自分の命は自分で守る～…………… 11

モデル事例 3 調布市健全育成推進第一地区委員会 リーダーグループ 一風

調布市健全育成推進富士見台地区委員会 リーダーグループ ぼんた

調布市健全育成推進染地地区委員会 リーダーグループ グループてんとう虫

地区を超えるジュニアサブリーダー養成活動：継承者の育成に向けて…………… 13

モデル事例 4 立川市青少年健全育成曙町地区委員会

曙町 三世代のふれあい 新春ファミリーフェスティバル…………… 19

その他の取組事例 1 あけぼの夏まつり…………… 23

その他の取組事例 2 立川市民科「おみこし体験授業」…………… 24

■ 青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例一覧…………… 25

■ 地区委員会等推進モデル事業について…………… 28

令和 5 年度田園調布地区青少対講演会 「武隈親方のお相撲教室」

地区委員会の概要

大田区の青少年対策地区委員会は、区内 18 地区に分かれてそれぞれ青少年健全育成のための活動を行っています。田園調布地区では今回推薦の対象となった講演会のほかに、バスツアーや青少対まつり、地区内のジュニアリーダーを対象とした宿泊研修などを実施しています。また、他の地区委員会と合同の事業として、区内 10 会場で実施している「大田区子どもガーデンパーティー」や、区内 3 地域に分けて地域のリーダーを育成する「リーダー講習会（小学生対象）」なども行っています。

事業開始の概要

田園調布地区では、子どもたちが夢を持つ一助とするとともに、自分が住んでいる地域に愛着を持って育ててほしいと考え、毎年、地域にゆかりがある方をお招きして、様々なテーマでお話しいただく「講演会」を実施しています。今回は、令和 4 年 2 月に田園調布地区で相撲部屋を創設した武隈親方（元大関豪栄道）に講演していただきました。

実施日：令和 5 年 12 月 17 日（日）午前 10 時～午前 11 時 30 分
会 場：田園調布せせらぎ館 1 階第一多目的室

事業の目的

講演内容としては、地域の子どもたちへ国技といわれ日本の伝統文化である相撲の歴史や武隈部屋の 1 日、ビデオを用いた大相撲十一月場所の取り組みの解説等について、お話ししていただきました。単に武隈親方の講演を聞くだけでは無く、質問時間を多く設けることで、親方と積極的にコミュニケーションをとってもらいました。また、現役の力士の方にもご協力いただき実施した四股トレーニングにおいても、力士の方と参加者が積極的に交流できるような場を作ることで、相撲の楽しさをより奥深く体験することが出来るように工夫しました。

組織体制

青少対委員 10 名、ジュニアリーダー 18 名、区職員 3 名
(内、当日インタビュアーに青少対委員 1 名、ジュニアリーダー 2 名)

事前準備、周知・広報について

準備段階においては、武隈部屋の稽古を見学し、講演会の実施形態や内容の擦り合わせを行いました。親方からインタビュー形式での講演の実施希望があったため、実行委員と、地区の中高生を中心に構成されるジュニアリーダーでインタビュー内容を考えていきました。本番における役割分担を決めるなどの、準備段階からジュニアリーダーにも積極的に参加してもらいました。

周知広報については、チラシを作成して地区内の各小中学校に配布するとともに、自治会・町会の回覧板や、当日会場となった田園調布せせらぎ館や田園調布特別出張所の窓口への掲示等の方法で実施しました。

なお、チラシは参加申込書としても使用する形式で作成しました。従来は、事務局となっている特別出張所での窓口申込のみでしたが、今回は二次元コードを活用した電子申込の方法も取り入れました。

他地区と合同で実施している「リーダー講習会」をはじめ、様々な手続きにおいて、二次元コードが活用されていることを踏まえ、今回の講演会においても採用しました。

ただし、スマートフォン等をあまり利用されない方がいる可能性も考慮して、電子申込に限らず、窓口申込についても例年通り実施しました。

電子申込を利用することで当日の参加者リストを作成することなどの事務作業の時間を短くすることができ、運営の効率化を図ることもできました。

事業の流れ・内容

実際の講演会の流れとしては、開会あいさつの後に、司会者から武隈親方を紹介し、映像を使用しながら相撲の歴史や武隈部屋の様子、直近の本場所の取組解説等について武隈親方にお話しいただきました。その後、武隈部屋に所属する現役力士の方にもご協力いただき、四股のトレーニング体験を実施し、最後に質疑応答の時間を設けました。

当日の実施の様子

当日は、まず会場で従事者全員がそれぞれ、使用する映像の準備や音響確認、受付の流れなど役割に応じて事前確認をしました。また、武隈親方や力士の方を控室等へご案内し、インタビュー内容等講演会の流れの最終チェックを武隈親方と実施しました。

青少対委員1名とジュニアリーダー2名がインタビュアーをつとめました。緊張しながらも、ジュニアリーダーたちから武隈親方に様々な質問を投げかけ、講演を盛り上げました。



講演会の様子
(インタビューするジュニアリーダー)



講演会の様子 (インタビュー)



講演会の様子 (インタビューに答える武隈親方 (左))

一方、武隈親方も一つ一つの質問に丁寧に対応していただきました。稽古やトレーニングの方針だけでなく、一日の食事の量や相撲部屋の一日の過ごし方、親方としての今後の目標など普段聞くことができないような話にも発展しました。

また、取組解説の際には、部屋頭の豪ノ山関の取り組みを中心に、直近の本場所の取組の動画を見ながら、立ち合いや低い姿勢で当たっていくことの善し悪しなど、勝敗のポイントになるところを丁寧にお伝えいただきました。

続いて、四股トレーニング体験の際には、武隈部屋に所属する現役力士の方にもご協力いただき、デモンストレーションを交えながら、体幹トレーニングとして、他のスポーツでも取り入れられているなど、四股トレーニングの魅力をお話しいただきました。

この体験については、参加者だけでなく、運営をしているスタッフも一緒に体験をしました。来場された参加者の方の多くは家族でご参加いただき、武隈親方がお話しされている際は、終始真剣に耳を傾けていました。特に、親方が力士を目指したきっかけや大相撲の世界に入門する前のお話はとても興味深く聞いていました。

そして、四股トレーニング体験の際は、親方や力士の方の体の大きさや柔軟性に大変驚いていて、力士の方や親方には、間近で直接ご指導をしていただき、参加者の足を上げる際の補助や、股割り運動の際に背中を押してもらうなど積極的に交流を図っていただきました。現役力士の方は、まわしをつけた状態で、直に交流していただいたため、大変盛り上がり、多くの笑顔があふれる現場となっていました。

講演会の最後に、親方への質問タイムを設けました。多くの質問に答えていただく中で、親



四股トレーニング体験の様子①
(現役力士の方によるデモンストレーション)



四股トレーニング体験の様子②
(参加者の体験の様子)



四股トレーニング体験の様子③
(参加者の体験の様子(股割り))



親方や力士の方との交流の様子

方がよく利用している地元中華料理店の話題などもお話ししていただきました。

また、終盤には、参加いただいた皆さんと記念撮影をしていただきました。親方と握手をして直接感謝を伝えている方もおり、喜んでいらっしゃる方が多くいらっしゃいました。

ジュニアリーダーの中には、一度稽古体験をしに来ないかと武隈部屋に勧誘されている生徒もおり、最後まで楽しい時間を過ごすことができました。

講演会終了後は、使用した物品の片付けや忘れ物のチェック等を全員で実施しました。

参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想

参加した子どもたちをはじめ、ご一緒に参加した保護者の方や従事したスタッフにとって、貴重な時間を過ごすことができたのではないかと感じています。

ただ講演を聞くだけでなく、四股トレーニング体験を取り入れることで、体を動かしながら、親方や力士の方と交流する場を作ることができたので、会場全体が盛り上がっていました。

そして、当日インタビュアーを担当したジュニアリーダーはとても緊張している様子でしたが、講演会が終わった後のほっとした様子がとても印象的で、多くの方が参加するイベントの中で、役割を果たすことができ、達成感を感じることができたと思います。

スタッフとしては、講演の準備から当日まで、ジュニアリーダーの意見を尊重しつつ講演会が参加者にとって楽しんでもらえる内容になるように考えを上手く引き出せたと感じています。フェイス to フェイスのイベントの機会が少なくなったところでしたが、コロナ禍が落ち着き、生の臨場感を体験する最高の舞台となったと思います。

事業を通して得られたものや課題

講演会は今回で5回目の実施となり、少しずつ認知度が上がっていると感じています。

今回は、事前の準備段階で地元町会の方にご協力いただくことで、武隈親方との調整も円滑に実施することができ、広報面においても、町会回覧や小中学校での周知など、積極的に地域の力を借りることができました。今後も継続していきたいと思います。

また、ジュニアリーダーの育成という観点では、企画の段階から積極的に参加し、多くの方の前に立ってインタビューする経験ができ、自分たちでイベントを盛り上げるといった自主性や責任感を育むことができたと思います。

課題としては、講演会の準備において、一部の委員やジュニアリーダーを中心に検討していることです。今後はより多くの、ジュニアリーダーやほかの委員からの意見を取り入れ、さらに多くの方に楽しんでもらえるイベントを実施していきたいと思います。

終わりに

毎年、講演会には様々な専門分野の方をお呼びしています。

繰り返しとなりますが、今回の講演会はジュニアリーダーがインタビュアーとして親方へのインタビュー内容を事前に内容を検討し、当日の流れの中で自身が感じたことをしっかり質問したことで自分たちもイベントを盛り上げるといった自主性を育てている事が感じられました。

今後も地域の子どもたちの夢を見つける機会や地域の魅力を感じられる場を作るとともに、ジュニアリーダー育成の場の一つとしても講演会を活用していきたいと思います。

モデル事例の指定のポイント

- 相撲部屋の力士など地元で活躍する大人と交流する活動を通して、子供たちが地域を愛好する心を育み、様々な職業をより身近に感じられる機会を設けることで、子供たちの夢の実現に向けた一助となるよう取り組んでいる。
- ジュニアリーダーが武隈親方へのインタビューを行うなど、大人へ直接質問する経験を通じて、子供たちの自主性やコミュニケーション能力を高めている。
- 参加者募集に二次元コードを活用することで、取りまとめ業務の負担を軽減するなど、運営の効率化を図っている。

連絡先

大田区地域力推進部田園調布特別出張所
電話番号 03-3721-4261

青少対まつり

事業開始の経緯

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、様々なイベントが中止となり、やりたいことや外で遊ぶことを制限されていた子どもたち、活動を制限されていたジュニアリーダーが、思いっきり楽しむことができるようなイベントを実施したいと考え、令和4年から開催しています。

活動内容

実施日：令和5年11月3日（金・祝）午前9時30分～午後2時

会場：田園調布せせらぎ公園・田園調布せせらぎ館

組織体制

青少対委員 15名、ジュニアリーダー 20名、区職員 3名

事業の目的

ジュニアリーダーや青少対委員を中心に、地域や区内の資源を利用して、地域の子どもたちが楽しむことができるイベントを実施し、地域の子どもたちの活発な交流を促すとともに、企画準備・運営を通じて、ジュニアリーダーのコミュニケーション能力や主体性の向上を目標としています。

事前準備、周知・広報

青少対まつりは、地域の子どもたち向けに実施しているため、周知広報は、主に地域の小中学校と町会へチラシを配布しました。また、せせらぎ公園とせせらぎ館という比較的広いエリアで実施するため、事前にエリアマップの作成やスタッフの配置やシフトの検討などを実施しました。

事業の流れ・内容

令和5年度の青少対まつりは、ボッチャ体験、ウォークラリー、クリスマスツリーづくり、スライムづくりの4つの企画を実施しました。

当日は、各担当に分かれ、イベント開始前にそれぞれ材料準備や物品搬入などを行いました。

また、イベント実施中は、比較的広いエリアを活用したイベントになったため、それぞれの企画に参加した方にほかの企画を案内するなどイベント全体を楽しんでもらえるように工夫しました。

イベント終了後は、使用した物品の片付けを行い、記念撮影をしました。

当日の実施の様子

当日は、天候にも恵まれ、多くの方に来場いただきました。

準備の段階から担当ごとに分かれて、企画の検討を行ったため、イベント当日はスムーズに運営することができました。

ボッチャ体験会では、ボッチャに夢中になっている家族が順番を待って何回も体験している様子がありました。

スライムづくりとクリスマスツリーづくりでは、参加者の方がうまく作ることができるよう一人ひとり丁寧に教えていました。

ウォークラリーでは、暗号の隠し場所を随時変えるなど、イベント開催中もアイデアを出し合っている様子がありました。

また、イベント終了後も全員で協力して片付けを実施することができ、当初の想定時間通りにイベントを終えることができました。

事業を通して得られたものや課題

今回のイベントは4つの企画ごとに担当を決めて実施しましたが、開催前の準備や開催中における他企画の宣伝、最後の片付けなど、全体を通じて、従事者全員が一つのイベントを協力して成功させるという思いをもって実施することができ、田園調布地区青少対およびジュニアリーダーの結束強化につながりました。

今後も、地域の子どもたちを楽しんでもらえるよう協調性を大切にしてイベント運営をしていきたいと思えます。

青少対バスツアー ～三浦半島～

事業開始の経緯

地域の子どもたちに、普段の生活や地域内ではできない体験を経験しつつ、今後のキャリア形成の一助となるよう、新しい出会いや知識と触れ合ってもらいたいという思いから、毎年行き先を変えて実施しています。

活動内容

実施日：令和6年1月21日（日）
行き先：三浦半島

組織体制

青少対委員 10名、ジュニアリーダー 18名、区職員 3名

事業の目的

地域の子どもたちのキャリア形成の一助にするとともに、各班の班長をジュニアリーダーが実施することで、ジュニアリーダーのリーダーシップや主体性の向上を図っています。

事前準備、周知・広報

小学生を対象としていたため、田園調布地区内の各小学校へのチラシ配布という形で募集しました。申込みについては、講演会と同様に、窓口申込と電子申込による2つの方法で実施しました。申込期間終了後は、当日の見学や体験は班に分かれての実施を想定していたため、班員の振分や当日の流れのチェック、救急セットなどの準備を行いました。

事業の流れ・内容

今回は三浦半島エリアにある3つの施設を訪問し、見学体験を実施しました。

【当日の行程】

集 合：田園調布エリア
1 か所目：観音崎自然博物館（施設見学、生き物ふれあい体験）
2 か所目：津久井浜観光農園（いちご狩り）
3 か所目：長井海の手公園 / ソレイユの丘（ピザ作り）
解 散：田園調布エリア

当日の実施の様子

当日の活動中は、ジュニアリーダーを中心にそれぞれの体験場所で、班行動を実施しました。子どもたちの自由奔放な動きに、苦労している様子がありながらも、ジュニアリーダーが班員の子どもたちをしっかりと導いて、見学・体験を行っていました。また、ジュニアリーダーにとって、班長として一日中子どもたちを導く経験は、とても貴重なものになったと感じています。初めて会う子どもたちと積極的にコミュニケーションをとり、活動中に離れてしまわないように気を配るなど、思うようにいかないことがあったと思いますが、最後まで意欲的に活動しており、事故なく、予定通りに帰ってくることができました。

事業を通して得られたものや課題

今回の活動では、ジュニアリーダーが班のリーダーとして1日主体的に考えながら行動することで、リーダーシップを中心に協調性や適応力の成長につながる機会となりました。今回の活動を通じて得たものを次年度以降につなげていけるように、青少対委員を中心にサポートしていきたいと思えます。

また、課題としては、集合時に雨が降っており、バスの出発場所の都合上外で集合していたため、集合時の点呼がうまくいかず、混乱してしまいました。次回以降は集合場所や出発までのスケジュールについて工夫したいと思います。

下小岩たんけん隊 ～屋形船たかはし丸に乗ろう～ 新中川の水辺の生き物と治水の歴史について

地区委員会の概要

江戸川区には 273 の町会・自治会があり、17 の地区委員会が設けられています。下小岩地区委員会は、JR 総武線小岩駅南口の古き良き商店街を有する、人情と活気あふれる地域がエリアです。当委員会は 6 つの町会・自治会から選出された委員や近隣小・中学校の校長、PTA 会長など 65 名の委員で構成され、4 つの部会に分かれて活動をしています。小さな子どもから大人まで幅広い年齢層が参加できる活動を各部ごとに企画・運営し、精力的に青少年の健全育成に努めています。

事業開始の概要

この事業は、江戸川区青少年委員会「子ども文化体験研究グループ」の活動内容を、下小岩地区委員会に取り入れた形で始めました。

子どもたちに、下小岩地区の伝統・文化や人々にふれる機会をつくり、自分たちの住むまちを知り、愛着をもち大切にす郷土愛・社会性を育むことを目的として行っています。

これまでに 6 回行い（新型コロナウイルスの影響で 2 回中止）小松菜農家の方から小松菜についての話を聞き、収穫体験をしたり、昭和の名横綱といわれた栃錦関について出身地の町会長さんの話を聞いたりしました。また、JR 小岩駅周辺は再開発により商店街も大きく変わりつつある中で、伝統的な商品を扱う老舗や昔ながらの売り方のお店を巡り、店主からの話を聞いたりしました。

今回は、この地域を洪水から守るために人工的に作られた新中川についての治水の歴史と新中川を利用した産業の屋形船について、また新中川の水辺の生き物について、実際に屋形船の乗船体験をしながら学びました。

実施日：令和 6 年 2 月 3 日（土）午前 10 時～午後 0 時 40 分

実施場所：屋形船たかはし丸・下小岩小学校体育館

参加人数：子ども 91 名 地区委員 37 名 保護者約 50 名

参加対象は、下小岩地区在住または下小岩小学校在学の小学生とその保護者です。地域の掲示板と小学校でのポスター掲示、小学校全児童へのチラシ配布で周知しました。

実施に向けては、まずお話ししてくださる地域の方を、知り合いや様々な人脈を活用して依頼しました。そして地区委員会の活動についての説明から始まり、たんけん隊の内容詳細について何度か打ち合わせを行いました。

屋形船たかはし丸の高橋社長からは、屋形船の構造や運航について実際に船内を見ながら話を聞き、棧橋や船の屋上から川を見ながら水辺の生き物（水鳥・魚・カニ・貝など）について話を聞きました。

下小岩小学校体育館では、江戸川区土木部区画整理課の課長から新中川の治水の歴史や工法

について、プレゼンテーションソフトを使った説明を聞いたり、当時の工事の様子の映像を見たりしました。

そして、説明を聞くだけではなく、楽しみながら学べるように説明に沿ったクイズ10問の得点とサイコロ投げやくじ引きなどのお楽しみゲームの得点の合計で順位を決め、それぞれに賞品のお菓子を渡しました。また、学んだ事を家族の方にも話したりできるように「新中川生き物図鑑」や写真資料を配布しました。

下小岩小学校から屋形船の場所までの移動や乗船体験を安全にスムーズに行うために、従事する地区委員で実地踏査をし、歩行ルートの確認・タイムスケジュール・役割分担・備品の準備など綿密な計画を立て、丁寧な打ち合わせを行いました。

また、子どもたちが安全に移動できるように信号などの要所に交通安全協会の方に立っていただき、安全見守り・誘導をお願いしました。

当日の実施の様子

当日は晴天に恵まれ、1年生から6年生まで多くの子どもたちと保護者の参加がありました。子どもたちは学年を縦割りにし約10人ずつ10班に分け、その場で班長や班名を皆で話し合いながら決め、いつもの学校とは違う子ども同士の交流が始まります。

小学校での開会式の後には、そのまま体育館に残るコースと屋形船たかはし丸に向かって出発するコースに分かれ、それぞれ交互に移動し説明を聞き、再び体育館に集まり結果発表・表彰式を行いました。

地区委員会のメンバーが歩行リーダーになり、安全に移動させ、地域の方の話をよく聞くよう促し、皆で相談してクイズの答えを考えたりお楽しみゲームを行うよう勧めます。

屋形船たかはし丸では、水辺の生き物を守るために岸辺をコンクリートで固めず、葦を育てることで水鳥や魚・亀・カニ・貝などの住処になることを教わりました。

また、船内では畳を上げて船底の3基のエンジンを見せていただき、それぞれに役割がある事を知り、実際にその大きさを目で見て耳で聞いて驚きとともに理解を深めていた様子でした。船のデッキでは川から自分たちのまちの景色を見たり、カワウが餌を捕る様子を見て自然を身近に感じていたようです。また、台風の時に川岸が増水した様子の写真を見ながら水害



下小岩たんけん隊歩行の様子



たかはし丸船内のエンジン



たかはし丸の船上

の怖さや川に安易に近づかないという注意まで話が及びました。

高橋社長は声が届くよう配慮したり、子どもたちに問いかけをしながら興味をもつよう引き込む話し方でわかりやすく説明してくださいました。

体育館での新中川の治水についての話では、江戸川区土木部区画整理課の課長から、なぜ新中川が作られたのか、川の氾濫を防ぐために橋の構造にどんな工夫がされたのか等の話を聞きました。

プレゼンテーションソフトを使って子どもたちにも分かり易く説明してください、工事の様子映像を実際に目で見ることでわかりやすく記憶にも残り、子どもたちからは積極的に質問がでたり、保護者の方からも質問があったりと有意義な時間となりました。

クイズやお楽しみゲームの結果発表の集計を待つ間は寒い中を歩いてきた体をホットココアで温め、クイズの答え合わせや「新中川生き物図鑑」の配付を行いました。

閉会式では、各班の得点と順位が発表され、大きな歓声があがり全員が賞品のお菓子を手にし嬉しそうでした。



治水講演の様子

参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想

この活動を依頼した地域の方々、地域の事を子どもたちに知って欲しい・伝えたいという熱い思いにあふれ、話の内容やアイデアがふくらんでいきました。

低学年中心の子どもたちに、限られた時間内にわかりやすく、実際に目で見て耳で聞いて楽しく学べるように工夫してくださいました。

子どもたち全員が屋形船に乗る事や工事の様子をビデオで見る事は初めてで「びっくりした!」「楽しかった」「また参加したい」などの声が聞かれ、貴重な体験になったと思います。

スタッフは、大勢の子どもたちを安全にまちの中を移動させ、体験させる事に細心の注意をはらって自分たちの役割を果たし、「無事に終わってよかった」「子どもたちが楽しそうだった」という声が一番多く聞かれました。

事業を通して得られたものや課題

子どもたちが自分たちの住むまち下小岩に、どんなものがあり、どんな歴史があり、どんな人たちが関わっているかなどを実際に歩いて・見て・ふれて・聞いて・学ぶことで、まちを好きになり身近に感じて覚えていてくれたら幸せなことだと思います。

地域の様子も、また地域の人びともどんどん変わっていき、なくなっていくものもあります。

それらも振り返り伝えていく事や繰り返し継続して次の世代の子どもたちにも伝えていくことが大切だと思います。

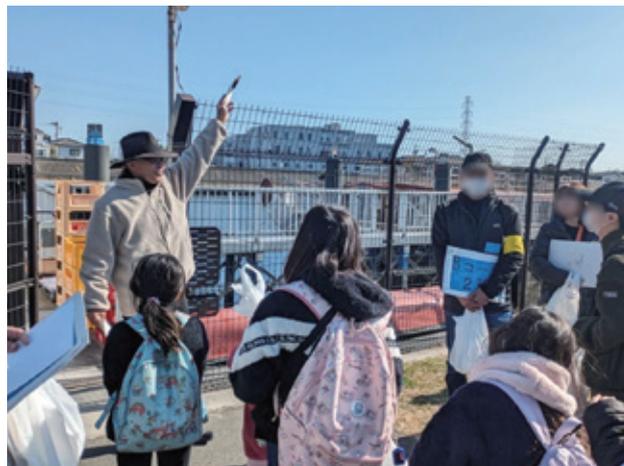
終わりに

子どもたちが、自分たちの生まれ育った地域の伝統や文化に親しみ、誇りと愛着を持つことは、子どもたちの心を豊かにし、さらに地域の人間関係を豊かにすることができるでしょう。

今後はさらに、ふるさと下小岩の特色やよさを伝える事はもちろんのこと、日本の伝統文化も含め、小岩地区、江戸川区の特色や伝えたい事にも視点を広げいろいろな切り口でテーマを考えて継続していけたらと思います。



たかはし丸船内での説明の様子



たかはし丸船外での説明の様子

モデル事例の指定のポイント

- 地域にある企業と連携し、屋形船の構造や水辺の生き物、新中川の治水の歴史について学び、地域の歴史や人々に触れる機会をつくることで、子供たちの郷土愛・社会性を育んでいる。
- クイズやゲーム、生き物図鑑の配付等、子供たちが楽しみながら学べるよう工夫している。
- 地域の企業・大人への講師依頼を通じて、地域全体で子供を育成する体制の構築につながっている。

連絡先

江戸川区役所生活振興部小岩事務所地域サービス係
電話番号 03-3657-7836

子ども防災体験～自分の命は自分で守る～

事業開始の経緯

いつ起こるかわからない災害に備えて、自分の命は自分で守るために、防災についての知識・知恵を体験を通して身につけて欲しいという思いで平成 25 年度から始めました。防災知識を学ぶことにより、下小岩地区全体の防災対策の向上を目指すことを目的に、毎年 1 回地域の小学校の校庭や体育館を会場に行っています。

当初は小岩消防署の協力を得て防災訓練を行っていましたが、より多くの子どもたちに参加してもらうために地区委員会の「がっこうであそぼう！」という事業と共催で実施した時もありました。

平成 29 年に江戸川区青少年委員会の「防災意識を高める研究グループ」の協力を得て、子どもたちに、より楽しみながら災害時の対応についての知恵や知識を学ぶ内容での体験を実施しました。

その後は地区委員が中心となり、災害時を想定して身近にあるものを使って工夫して災害を乗り切るための具体的な方法を説明し、実際に作ったり使ったりと体験する内容で実施しています。

当日の実施の様子

今回は準備から当日の災害時を想定した防災知識の説明や防災グッズの作り方の指導も、地区委員で行いました。

3つのコーナーをグループごとに回り、それぞれを体験します。保護者にも参加して一緒に体験してもらいました。親子で出来栄を披露しあったり、競って作る様子もみられました。

簡易トイレは自宅での状況を考え、子どもたちからもアイデアが出たり、ペットボトルのランタンは実際に暗くした中で体感しその明るさに驚いていました。ティッシュで作ったこよりをツナ缶に浸したランタンでは、こよりの作り方に興味集中しました。新聞紙の靴下は気に入って帰るまで履いている子もいました。



ペットボトルでランタン作成



新聞紙で靴下作成

防災クイズは二者択一で分かり易い基本的な問題ですが、正解者にはお菓子を配り、盛り上がりました。

炊き出し体験は、当初は江戸川区の災害用備蓄倉庫に保管されているお米・梅干しを使ったおにぎり作りやサバイバルフーズのスープ缶の試食をしたりしました。最近では市販の炊き込みご飯やおにぎりなどいろいろな種類の非常食がありますが、今回はおにぎりの試食をしました。

事業を通して得られたものや課題

家族でもこの体験をもとに話し合ったり、それぞれの家庭での災害時の対策について考えるきっかけになり、防災意識を高めることにつながればよいと思います。

今後は、広く防災の専門家の方の協力を得たりしながら、親子で備える身近な防災対策についてや江戸川区ならではの災害時の対応について学んだりできたらよいと思います。そして防災意識を高めるためにも、常に継続的にこのような事業を実施していくことが重要だと思えます。

活動内容

年度	事業名	内容	協力
平成 25 年度 平成 26 年度	防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に関する話 ○初期消火 ○起震車による地震体験 	小岩消防署
平成 27 年度	がっこうであそぼう！ 防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○手作り遊び ○昔遊び ○缶積み ○初期消火 ○煙体験 ○炊き出し体験 	小岩消防署
平成 28 年度	がっこうであそぼう！ 防災クイズ	<ul style="list-style-type: none"> ○手作り遊び ○昔遊び ○缶倒し ○防災クイズ ○炊き出し体験 	防災士
平成 29 年度	子ども防災体験	<ul style="list-style-type: none"> ○火起こし体験 ○ダンボールハウス設置体験 ○防災グッズ作成と炊き出し ○防災クイズ 	江戸川区青少年委員会 「防災意識を高める 研究グループ」
平成 30 年度	子ども防災体験	<ul style="list-style-type: none"> ○段ボールを使った簡易トイレ作り ○ペットボトルを使った照明 ○新聞紙を使った腹巻・靴下・食器作り ○炊き出し ○防災クイズ 	地区委員
令和元年度	子ども防災 スポーツ大会	<ul style="list-style-type: none"> ○毛布でタンカ・障害物競争 ○とつげき！キャタピラ ○消火！水パック投げ ○非常食の試食 	地区委員
令和 5 年度	子ども防災体験	<ul style="list-style-type: none"> ○段ボールを使った簡易トイレ作り ○新聞紙を使った靴下・食器作り ○ペットボトル・ツナ缶を使った 簡単ランタン作り ○防災クイズ ○非常食の試食 	地区委員

(令和 2 ～ 4 年度は新型コロナウイルスの影響で中止)

モデル事例 3

調布市健全育成推進第一地区委員会 リーダーグループ ー風
調布市健全育成推進富士見台地区委員会 リーダーグループ ぽんた
調布市健全育成推進染地地区委員会 リーダーグループ グループてんとう虫

地区を超えるジュニアサブリーダー 養成活動：継承者の育成に向けて

地区委員会の概要

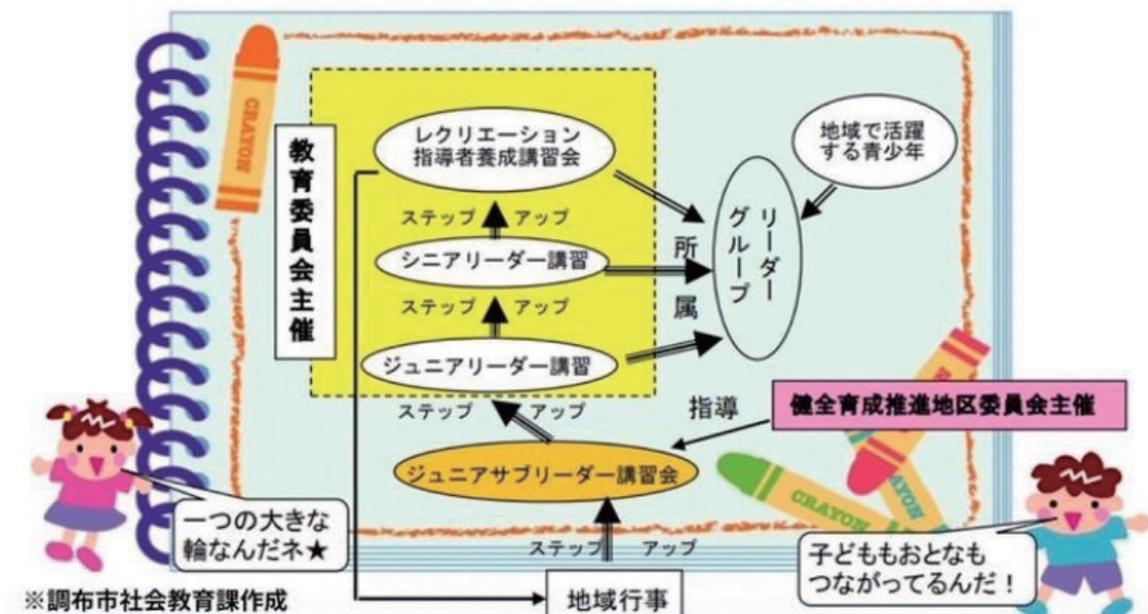
健全育成推進地区委員会は市立小学校通学区域を単位として 20 地区で設置されており、全地区で約 600 名の委員で構成されています。各地区委員会は地域における健全育成を図ることを目的としており、地域の特色を活かしながら様々な活動を実施しています。

調布市では青少年の健全育成を施策の一つに掲げ、青少年が次代を担う社会の一員として社会生活を送ることができるよう、健全育成の場の提供や地域活動において活躍できる人材の育成等について、家庭・学校・地域・行政が一体となった取組を推進しています。それに伴い、各地区の健全育成推進地区委員会や各地区の“リーダーグループ”は『ジュニアサブリーダー講習会』を開催し、各小学校地区における各種のレクリエーション活動の実施、次世代のリーダー育成を行っています。

リーダーグループは各小学校地区の卒業生を中心に中学生を準会員、高校生以上を正会員としており中学生～40代の幅広い年代のメンバーで構成されています。

調布市内の公立小学校 20 校のうち、ジュニアサブリーダー講習会を開催しているのは 12 校です。その中で活動地域が近く、親交が深い 3 地区のリーダーグループが合同で『ジュニアサブリーダー講習会』を行っています。

☆ 調布市のリーダー養成 ☆



調布市のリーダー講習会サイクルの図

通常講習会について

実施日：通年で月1回ペースの土日 × 3回（3地区分）

場所：各小学校の校庭・体育館、市民ホールなど

主な役割：健全育成推進地区委員会：役割／参加者募集、受付、救護、保護者との連絡、会計など
リーダーグループ（一風、ぽんた、グループてんとう虫）：企画・運営／プログラム作成

各地区、30名程度の小学3～6年生（人数制限なし、希望者）を対象に、通年で毎月1回程度のペースで『ジュニアサブリーダー講習会』という講習会を開催して、コミュニケーション力やリーダーシップ・パートナーシップを育み、地域で活躍できる人材を育成しています。この取組は調布市では1980年代より始まり、開催地区を増やしながらか40年以上続いています。

令和2年に日本中を襲ったコロナウイルスにより『ジュニアサブリーダー講習会』の開催ができない期間が続き、コロナ禍が落ち着いた後も参加者が減少したり内容の縮小を余儀なくされました。そんな中、『ジュニアサブリーダー講習会』を複数のリーダーグループ、健全育成推進地区委員会そして小学校が連携し、年2、3回のペースで「合同講習会」を企画・開催することで、新たなリーダー養成の形を再構築しています。

学年や地区を越えた交流を図ることで、様々な形のコミュニケーションをより促進し、地域で活躍できる人材の育成を目標とし、様々な活動を展開しています。

具体的には、キャンプや水遊び、焼き芋大会など普段の生活では体験できないことを中心に講習会を組み立てています。

合同講習会ではない地域毎の講習会でも、それぞれの地区の活動に他地区のリーダーグループがそれぞれのユニフォーム姿で参加しています。令和5年度の水遊びは第一地区単独の活動ですが、写真にあるように一風（赤色のTシャツ）に加えてグループてんとう虫（水色のTシャツ）が参加して一緒に活動を盛り上げています。この他にも、ゲーム大会、おでかけ、八ヶ岳キャンプ、ウォークラリーなどの活動で協働しています。この取り組みは運営のノウハウの共有や実務経験を培う機会となるほか、リーダー同士の信頼関係が強まることで連携が円滑となり一つのチームとして、先に紹介した「合同講習会」でよりスムーズな運営ができるようになってきています。

「合同講習会」・「リーダーの互いの講習会への参加」、どちらも3グループのリーダーが集まり講習会内容を決める打ち合わせを行うことで、1グループでは補いきれない柔軟な発想でより魅力的な講習会の構築に努めています。参加対象者が各地区に在籍する小学3～6年生であるため、講習会の周知は地区毎に学校を経由して配られるお便りや電子メール・保護者用のSNSで行っています。講習会終了後、当日の様子は参加者の保護者用SNSでの配信のほか、Instagramを活用し、保護者や地域の方・レクリエーションに興味のある多くの方にも知ってもらう機会を作っています。

リーダーグループは地元調布市で今の参加者と同様にジュニアサブリーダー講習会に参加し成長して指導者となったメンバーで構成されています。今回紹介している3グループは以下になります。



各リーダーグループのTシャツ（赤色：一風、黄色：ぽんた、水色：グループてんとう虫）

※グループてんとう虫はオレンジ色のTシャツもあります

団体名	一風	設立	2010年
代表者名	斎藤英治（東京都レクリエーション協会理事 / 調布市レクリエーション研究会会長 / レクリエーション・インストラクター準上級保持）		
会員数	10名	活動地域	調布市立第一小学校を中心としたエリア

団体名	ぽんた	設立	1988年
代表者名	橋本駿（調布市レクリエーション研究会副会長 / レクリエーション・インストラクター中級保持）		
会員数	10名	活動地域	調布市立富士見台小学校を中心としたエリア

団体名	グループてんとう虫	設立	1974年
代表者名	箸方晃樹（調布市レクリエーション研究会会員）		
会員数	15名	活動地域	調布市立染地小学校を中心としたエリア



全地区が集まる講習会の様子



第一地区の通常講習会
他リーダーグループがたくさん参加

当日の実施の様子

●焼き芋大会（第一地区と染地地区の合同活動）

第一小学校では火気の使用ができず、コロナ前は近くのキャンプ練習場を借りて焼き芋大会を実施していましたが、近年、近隣への煙や匂いの配慮により第一地区のジュニアサブリーダー活動では焼き芋大会の実施ができなくなってしまいました。

対照的に、染地地区のジュニアサブリーダー活動では、染地小学校校庭での火気の使用が許可されており、焼き芋大会を毎年実施していたことから「合同講習会」の実施に至りました。さらに、グループてんとう虫からもリーダーの参加があり相乗効果の高い講習会を展開できる体制を整えての実施となりました。

当日は第一地区の参加者がバスで染地小学校に向かい、「合同講習会」が始まります。地区混合のチームに分かれ、チーム毎にさつま芋を新聞紙→アルミホイルの順番にくるみ、参加者自身で焼き芋の準備を体験していきます。健全育成推進染地地区委員会とグループてんとう虫が準備した特製かまどに芋を入れ、そこからは校庭でのチーム対抗レクリエーションゲーム大会がスタートします。ゲームは各地域のリーダーが順番に進めました。約1時間のゲーム大



焼き芋大会の集合写真

会が終わるころにはチーム内で参加者同士が声を掛け合う姿やハイタッチする姿が多く見られました。ゲーム大会終了後かまどに移動し、お芋の救出です。合同の打ち合わせで出たアイデアで、準備時にアルミホイルを2重にして、内側のアルミホイルに名前を書いていたため、完成時もアルミホイルをめくると自分の入れたさつま芋がわかるようになっています。チーム毎にさつま芋を取りに行き、アルミホイルをめくりながら「〇〇ちゃんのあったよ!」「〇〇くんの焼き芋美味しそう!」と交流する姿が印象的でした。

特製かまどに入れた後のさつま芋のお世話は健全育成推進染地地区委員会が担当、ゲーム大会の見守りは健全育成推進第一地区委員会が担当し、単独の講習会と比べ参加者の人数は多いですが分担することで安全面にも考慮した講習会の展開ができました。

●水遊び（第一地区と富士見台地区の合同活動）

「合同講習会」の先駆けとして平成29年頃から毎年一緒に講習会を行っているのが水遊びです。富士見台小学校には一面芝生の『裏校庭』があり、裸足で走り回っても、転んでも安全な環境が整っています。「一風」「ぼんた」、そして健全育成推進第一地区委員会と健全育成推進富士見台地区委員会の協議・協力によりスタートしました。



水遊び（一風とぼんた）の様子

当日は「一風」「ぼんた」に加えて「グループてんとう虫」のリーダーが集まりチームワークを発揮しながら水道にホースをつけ、ビニールプールを設置、参加者を迎え入れる準備を進めます。参加者が集合したらチーム分けです。各チームにリーダー1名が班付きになりチームをまとめます。初めて会う他地区の仲間と自己紹介をし、各地域のリーダーが順番に進めるゲーム大会が始まります。ゲームを進める中で、胸につけた名札を互いに確認しあい、「〇〇がんばれ!」「〇〇ちゃん上手!」など声を掛け合い協調性が生まれました。水を掛け合うことで心の距離が近くなり、他の講習会と比べ、参加者同士の距離が縮まっている様子も印象的でした。1時間ほど様々なレクリエーションゲームを行い、最後に行うのは毎年恒例「ウォーターフラッグ」です。芝生にブルーシートを敷き真ん中にフラッグを設置します。ホースで水を流し、ビーチフラッグの要領でブルーシートに飛び込みます。ここまでで仲良くなった仲間との真剣勝負、燃える闘志と応援の声で講習会の盛り上がりは最高潮に達しました。学校の前を通りかかった近所の方にも微笑ましく見守っていただくことができました。

野外かつ水遊びという声が通りにくい環境に加え、40人超えの参加者を前に健全育成推進地区委員会やリーダーの指示を伝えることは困難でもあります。しかし話を聞く場面、盛り上がる場面をしっかりと判断し、学年や地区は関係なく参加者同士で声を掛け合う姿が多数見られ、円滑な講習会の運営ができました。また健全育成推進地区委員会委員、リーダーの目が多いことで危険の察知や参加者の健康状態への目配りを行うことができ安全な講習会にすることができました。

●ジュニアリーダー大会

毎年3月に「ジュニアリーダー大会」という講習会が調布市内の市民ホールで行われます。「ジュニアリーダー大会」は各地区で『ジュニアサブリーダー養成講習会』に参加している小学生、『ジュニアリーダー養成講習会』に参加している中学生、『シニアリーダー養成講習会』に参加している高校生、地域のリーダーなど延べ150人近くが一堂に介し、1年間の集大成として各地区練習を重ねたスタンツ（寸劇）を披露し、全演目終了後に調布市教育委員会教育長から1

年間の活動の功績を称え「修了証」をもらう講習会です。この「ジュニアリーダー大会」でも、先に記載したように同講習会を経ているため、他地域に知り合い・友達ができている、楽しそうに話す姿や、それぞれの地区のスタンプを見ながら、「知っている人いるー！」などと楽しそうな声が多数上がりました。特に、小学校6年生が卒業後、中学生対象のジュニアリーダーに参加する際に他地区で知り合った仲間や、知っているリーダーがいるからいこうと言う声も見られ、参加へのハードルを下げられ、リーダー活動を続けるきっかけになっています。



ジュニアリーダー大会で各地区の代表者（参加者）が調布市教育委員会教育長から1年間の活動の功績を称え「修了証」をもらう様子

●キャンプ（第一地区の活動）

1泊2日で山梨県北杜市にある八ヶ岳にキャンプに行きました。このキャンプには、一風からはリーダーが2名しか参加できず、参加者約15名を引率するにはリスクが高く開催が危ぶまれていましたが、ぽんたとグループてんとう虫の協力により必要なリーダーの人数を揃えることができ、無事開催に至りました。バスレク・室内レクリエーションゲーム・キャンプファイヤー・飯盒炊さんなどのプログラムの中で、各グループでの経験を活かした展開をすることで、一風だけのキャンプとは異なり参加者に幅広い知見や経験を与えることができました。

1泊2日の生活をともにする中で、参加者の不安ごとが出てくる場面もありました。そういつた際、年齢・性別・性格が異なる多数のリーダーや健全育成委員がいることで、その時の参加者の心に寄り添えるスタッフが話を聞き、ケアすることができ、怪我や事故・トラブルなく生活をすることができました。



八ヶ岳キャンプの集合写真



八ヶ岳キャンプでのキャンプファイヤー

キャンプでは、普段長時間の関わりが少ない参加者と生活を共にすること、特に自分たちで食事を作ることでお互いが何をしたいかという思いやりの意識を育むことができ、自身の協調性や規範性を養う一助となるため非常に重要な講習会と考えています。無事に開催することができたのは3グループに協力があったからこそであり、一連の活動を通して、地区で活躍できる人材の育成に尽力しています。

参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想

「合同講習会」の中で地区を越えたチームで競う形でのレクリエーションゲーム大会が多くあることで、積極的に作戦会議や協力をする姿が見られ、参加者からは「仲良くなれた」「友達が

増えて楽しい」「前に講習会であった子を街なかで見かけた」などの声が上がっています。また中学校に上がった際、他小学校出身の友達がいて嬉しかった、と言う声も聞くことができます。

保護者からは「講習会で新しい友達が出来て楽しそうに参加している」や「講習会での出来事を楽しそうに話してくれ、親子のコミュニケーションが増えた」などの言葉も聞かれ、運営としても講習会に参加しての参加者の成長を感じられることが出来、有意義な講習会を企画・運営できていると思っております。

事業を通して得られたものや課題

各地区リーダー不足が悩みの一つです。メンバーの半数以上が社会人で講習会に合わせ仕事の休みを調整しますがなかなか時間が合わず少ないリーダーのみで運営することもありましたが、他グループと連携することで、人数の確保ができるようになりました。1人でも講習会の実施は可能です。ただ、複数のリーダーがいることで参加者への刺激にもなり、多様なリーダーがいることで参加者に合わせた接し方ができ、より楽しく効果的な講習会を作ることができています。

リーダーの互いの講習会への参加の面では、本来月1回ペースでの講習会に合わせて月1回の打ち合わせ・当日の運営のところ、実施回数が3倍になるため単純に負荷はかかります。今後さらに「合同講習会」の回数を増やすことで改善していければと考えています。

また使用施設（体育館や校庭など）の確保が課題となっています。特に第一小学校の施設は「一般開放」とされており、綿密な年間計画の作成が必要となっています。逆に言えば、そのすり合わせ自体が地区を超えた活動の活性化であり、各地区健全委員間のコミュニケーションの緊密化につながることも期待されます。

終わりに

調布市の掲げる“次世代のリーダー育成”は小学生で終わる訳ではなく、中学生→高校生と続いていきます。そのサイクルの一環として『ジュニアサブリーダー養成講習会』があり、地域を越えた講習会の実施はまさに次世代のリーダー育成に不可欠なものであると考えています。今後も引き続き3地区で連携し、参加者への様々な体験の提供をして、更には他地区にもこの取り組みを波及させていき、より調布市の未来につながる講習会を展開していきたいです。

また、リーダーグループから健全育成推進地区委員会に加わったメンバーもあり「継承者育成」の一つとなっています。

モデル事例の指定のポイント

- コロナ禍で縮小されていた活動を、3地区や学校、複数のリーダーグループが連携して実施するなど、新たなリーダー養成の形を再構築している。
- 1地区では実施が困難な活動を3地区が協力して企画・開催することで、学年や地区を超えた交流が可能となり、地域で活躍する人材を計画的に育成している。
- 焼き芋大会や水遊び、キャンプなどの「合同講習会」では、普段関わりが少ない子供たちが共に活動することで、思いやりの意識を育み、協調性や規範性を養うなど、未来のリーダーの育成を図っている。

連絡先

調布市子ども生活部児童青少年課
電話番号 042-481-7536

曙町 三世代のふれあい 新春ファミリーフェスティバル

地区委員会の概要

立川市青少年健全育成地区委員会は、市内の12地区（概ね町単位）で組織され、青少年の健全な育成のために地域の特性に応じた各種事業を展開する自主的な地域組織です。中でも曙町地区委員会は昭和33年9月2日に結成された組織で、「新春ファミリーフェスティバル」開催の他、広報紙の発行や地域の子どもたちの育成に関わる研修会を実施しています。

事業開始の経緯と目的

立川駅はJR中央線内で新宿駅、東京駅に次ぐ第3位の乗降客数を誇り、その北側の玄関口が立川市曙町です。曙町は、戦前は陸軍立川飛行場、戦後は米空軍立川基地のいわば「門前町」として発展してきました。立川基地の全面返還後は、その跡地に国営昭和記念公園やファール立川（オフィス街）が整備され、さらに多摩都市モノレールの開通も相まって、現在は多摩地域でも有数の繁華街として平日、休日を問わず多くの人々で賑わっています。しかし、その繁華街が曙町内の住宅街を東西に分断する形になっているため、地域の安全・安心を確保することが課題となっていました。そこで、地域の諸団体の協力のもと、昭和60年から「三世代（祖父母世代、親世代、子ども）」と一緒に遊べる場を提供することで、地域内での顔見知りを増やし、地域の安全や防犯に寄与することを目的とした取り組みを開始しました。

さらに、曙町は立川断層帯が町内を縦断しているため、防災意識が高い町でもあります。曙町地区委員会では年に1回、市内の立川防災館を訪問し、防災体験を行うことで、防災意識の向上に努めています。今回の事業では、4年ぶりに煮込みうどん作りを再開しました。うどんの提供を通じて、参加者同士の絆を深めると同時に、炊き出し経験を通じて有事の際の「自助」「共助」の精神を育むことも目的としています。地域の人々が協力し合い、支えあうことで、より安全で安心な地域を築くことが期待されています。

実施日：令和6年1月28日（日）午前9時30分～午後0時30分

実施場所：立川市立第二小学校 校庭・体育館

参加人数：200人

事業の周知・広報

事業の周知・広報については、地区の小中学校の協力を得て、全校児童にチラシを配布しました。また町内の自治会にもチラシの掲示と回覧を依頼しました。チラシでは、特に4年ぶりに再開させた煮込みうどんについて強調しました。

当日の実施の様子

「曙町 三世代のふれあい 新春ファミリーフェスティバル」の



新春ファミリーフェスティバルの
チラシ

開幕を告げるのは、地域の伝統芸能であるお囃子の演奏です。笛や太鼓の力強いリズムと軽快な音色が響く中、獅子やキツネ、おかめ、ひょっとこなどの面をつけた踊り手たちが舞い、新春を祝う華やかな雰囲気会場に広がります。曙町地区には「曙東はやし連」と「曙子どもはやし連」という2つの囃子連があり、これらが中心となり、地域の伝統を後世に伝える取り組みを続けています。フェスティバルは、この伝統の力強さと美しさを地域住民や子どもたちに伝える貴重な機会であり、お囃子を通じて、地域全体が伝統文化の価値を共有し、守り続ける重要性を再確認する場となっています。

フェスティバルでは、三世代全員が楽しめる様々なプログラムが用意されています。これらのプログラムは、三世代と一緒に楽しむだけでなく、伝統や新しい体験を通じた学びの場にもなっています。

●むかし遊びコーナー

むかし遊びコーナーでは、親世代以上にとって懐かしく、子どもたちにとっては新鮮な日本の伝統的な遊びを体験できます。羽根つき、ベーゴマ、めんこ、けん玉、お手玉など、昔ながらの遊びを三世代で一緒に楽しむことができるため、自然に三世代の交流が生まれます。さらに、校庭の広いスペースを活用して、竹馬や凧揚げを楽しむこともできるため、体を動かしながら笑顔あふれる時間を過ごせます。こうして三世代と一緒に遊びに興じることで、世代を超えた貴重なコミュニケーションが生まれ、地域全体の絆がより深まります。



むかし遊び（ベーゴマ）



むかし遊び（凧揚げ）



むかし遊び（竹馬）

●クラフトコーナー

クラフトコーナーでは、三世代と一緒に手作り体験を楽しめるさまざまなプログラムが開催されます。「立川クラフト協会」の指導のもと行われる「竹とんぼ作成」プログラムでは、竹を削り形を整えたりする作業を通じて、子どもたちは手先の器用さを養いながら、ものづくりの楽しさを学びます。完成した竹とんぼはその場で飛ばして遊ぶことができ、三世代が歓声を上げながら楽しむことができます。竹とんぼは持ち帰ることもでき、新年の思い出として飾ったり、家で遊んだりすることも可能です。「高松児童館」の指導による「ぶんぶんゴマ作り」プログラムでは、紙や紐を使って、自分だけのオリジナルゴマを作ることができます。完成したぶんぶんゴマをその場で回して遊ぶと、色鮮やかに回転する様子に子どもたちは大喜びでした。「凧の絵付け」プログラムでは、地域の中高生を中心に結成されている「曙町ジュニアリーダーズクラブ」の指導のもとで、白い凧に自由に絵を描き、自分だけのオリジナル凧を作成します。好きなキャラクターや模様を描いた凧を校庭で大空高く飛ばす体験は、子どもたちにとって貴重な時間です。



クラフトコーナー（竹とんぼ）



クラフトコーナー（凧絵付）

●モルック体験コーナー

フェスティバルでは、むかし遊びだけでなく、新しい遊びを体験することもできます。それが「曙町体育会」の指導のもとで行われる「モルック体験」コーナーです。フィンランド発祥の「モルック」は、木製のピンを使ったスポーツゲームで、木製の投げ棒（モルック）を投げて、ピン（スキットル）を倒し、得点を競います。シンプルなルールで年齢や体力に関係なく楽しめるため、三世代で一緒に遊べるのが魅力です。運の要素も強く、初心者でもすぐに楽しめるため、笑いが絶えない時間を過ごせます。三世代で競いながらゲームを楽しむ中で、自然とコミュニケーションが生まれ、絆が深まります。



モルックコーナー

●曙町名物 煮込みうどんコーナー

フェスティバルの最後を飾る煮込みうどんコーナーは、地域住民の交流を深める大切な場となっています。住民同士が力を合わせて作り上げるこの温かい一杯は、地域全体の絆を育む役割を担っています。地域の人々が一堂に会し、煮込みうどんを食べることで自然な交流が生まれ、世代を超えたコミュニケーションが促進されます。このコーナーは、日頃あまり接点がない人々と親しく会話をする貴重な機会となり、地域社会の結束を強めるきっかけとなっています。調理や配膳を分担する過程でも住民同士の協力が生まれ、地域全体の連帯感が強まります。特に、子どもたちは大人の姿を見て、協力や支え合いの大切さを学ぶことができます。

また、この煮込みうどんコーナーには、防災訓練という側面もあります。地域住民が協力して



煮込みうどん（調理）

して食事を提供する経験は、災害時の炊き出し活動のシミュレーションとしても重要です。大鍋や専用の薪コンロ（コンロに使用する薪は地域の木材店や工務店などから提供いただいたもの）は、災害時の備品として管理されており、普段のイベントを通じてこれらの使用方法を学ぶことができます。煮込みうどんを作る過程で協力し合うことで、災害時における効率的な対応の基礎が築かれます。

このように煮込みうどんコーナーは、地域の住民同士の交流と連携を強化する場であり、地域の絆を深める重要な役割を果たしています。煮込みうどんを通して、単なる食事の問題を超えた、地域全体が一体となる場が提供されているのです。防災への備えも含め、住民が協力し合いながら過ごすこの時間は、地域の強い絆の象徴です。

実施した上でのスタッフの感想

- 全体として会場が笑顔で溢れており、三世代の方々が楽しそうな姿を見ると、こちらまで嬉しい気持ちになりました。
- むかし遊びやクラフト、モルック体験のコーナーで三世代の方々が一緒に楽しむ姿を見て世代を超えた交流が生まれていることに感動しました。
- 防災の観点を取り入れた煮込みうどんコーナーでは、地域の絆が深まる様子を実感し、意味のある取り組みだと感じました。参加者からの「美味しかった！」との声を聞いて、疲れが吹き飛びました。
- 地域の人々が一体となって作り上げるイベントの大切さを実感し、来年もこのフェスティバルを支える一員として参加したいという気持ちが強まりました。

事業を通して得られたものや課題

フェスティバルを通じて得られたものは多岐にわたります。まず地域の絆の強化が挙げられます。多くの参加者が集まり、交流を深める中で、互いの顔を知り親しみが生まれる様子を目の当たりにしました。特にむかし遊びコーナーやモルックコーナーで三世代と一緒に体験する姿が見られ、世代を超えた交流が生まれていたのが印象的です。また、地域の伝統文化を守る重要性も再認識しました。

一方で課題としては、防災の観点からの炊き出し訓練において、より多くの住民の方々に参加いただけるような仕組み作りが求められているように感じました。地域全体での防災意識をより一層高めるための取り組みを強化していくことが今後の課題です。

終わりに

フェスティバルは地域の絆を深め、伝統文化を守るための貴重な機会となりました。三世代の住民が一堂に会し、新年を祝うだけでなく、様々なアクティビティを通じて世代を超えた交流を促進することができました。煮込みうどんコーナーでは、地域住民が協力し合いながら調理を行うことで、災害時における支えあいの重要性を再確認することができました。この取り組みは、ただ美味しい食事を提供するだけでなく、地域全体の防災意識を高める意味でも重要です。

今後もフェスティバルを通じて、地域の活力を引き出し、未来へとつなげるための取り組みを続けていきたいと思えます。さらなる成長と改善を目指し、地域の方々と力を合わせて、より良いイベントを実現していきたいと心から願っています。

最後になりますが、ご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

モデル事例の指定のポイント

- 三世代と一緒に遊べる場を提供することで、地域の交流を促進し、安全や防犯にも貢献している。
- 地域の同好会や子ども会、児童館等と連携し、三世代と一緒に楽しめるフェスティバルを開催するなど、地域全体で子供の育成を図っている。
- 4年ぶりとなる煮込みうどん作りを再開させ、炊き出し経験を通じて参加者同士の絆を深めるとともに、防災意識の向上や有事における自助共助の精神を育んでいる。

連絡先

立川市子ども家庭部子ども育成課青少年係
電話番号 042-528-4367

あけぼの夏まつり

このイベントは平成元年から開催している「曙町パレード」の事業内容を発展的に見直した上で、曙町が一体となって老若男女三世代が楽しみながら交流を図り、地域の絆をより深めるとともに、来街者や外国人の方にも日本の伝統文化を楽しんでいただくことを目的として開催しました。

活動内容

実施日：令和6年8月3日（土）、4日（日）午後2時～午後8時
会場：立川市曙町内サンサンロード（多摩都市モノレール下 遊歩道）

事業の目的

- ・ 地域住民の親睦を深める
- ・ 子どもたちの夏の思い出作り
- ・ 地域の活性化の促進
- ・ 伝統文化の体験の場の提供
- ・ 自治会への加入促進
- ・ 来街者の方や外国人の方への立川市曙町のイメージアップ

事業の内容

町内のサンサンロードに「おまつり広場」を開設し、「模擬店」「ゲームコーナー」「ステージ」「納涼おどり」「みこし」「お囃子」などを実施しました。「模擬店」「ゲームコーナー」には町内の各種団体が出店し、「立川警察署」、「立川消防署」、「自衛隊立川駐屯地」、および地元企業にもご出展いただきました。

<広報の方法>

立川駅北口デッキ上に提灯櫓を設置し、来街者にアピールしました。

町内のデパートにご協力いただき、大型ビジョンで広報フィルムを流しました。

各自治会に協力を得て、チラシ・ポスターの掲示・配布を実施しました。

子ども会に加入している子どもたちには、500円分の金券を配布しました。

当日の実施の様子

初日となる3日は午前8時から業者による設営作業が始まり、設営が終了した正午から実行委員が集まり、事前準備を行いました。両日午後2時から模擬店やステージが開催されました。午後4時から「子どもみこし体験」を実施し、「サンサンロード」内を巡回しました。午後6時から「納涼おどり」を行い、来街者や外国人の方にもご参加いただきました。結果、両日とも猛暑の中での開催でしたが、天候にも恵まれ、事前の想定を大きく上回る1万人以上の来場者を迎えることができました。なお、開催翌日の午前8時から業者による撤収作業が実施されました。

事業を通して得られたものや課題

想定を大きく超える来場者があり、曙町のポテンシャルを改めて感じることができました。その中でも、大きなトラブルもなくスムーズな運営ができたことで、開催団体単独の絆のみならず、団体の枠を超えた絆が強まりました。



あけぼの夏まつり

立川市民科「おみこし体験授業」

事業開始の経緯

立川市内の小・中学校全校では立川市独自の教育課程である「立川市民科」が実施されています。主体的に地域と関わり、地域に根差した探究的な学習を深めることで、地域を大切にする思いを育み、優れた伝統の継承や新たな未来を拓いていく、よりよい社会の担い手たる市民を育成することを目的としています。

近年、自治会や子ども会への加入率の低下にともない、「おみこし」を担いだ経験がある子どもたちが減少しています。そこで「あけぼの夏まつり」を開催するにあたり、地域の中学生に「おみこし」の体験をしてもらい、その楽しさや伝統を知ってもらう機会を作るために実施しました。

活動内容

実施日：令和6年7月10日（水） 午後1時～午後2時
会場：立川市立立川第二中学校 体育館

事業の内容

立川第二中学校1年生180人を対象に立川市民科「おみこし体験授業」を開催しました。

当日の実施の様子

正午から「おみこし」の搬入と組み込みを実施しました。午後1時から「おみこし」の文化的、伝統的な説明を行い、その後、町内の自治会やみこし愛好会の方々の指導のもと、実際にみこしを担ぎました。最初は少し緊張気味だった生徒たちも、回を追うごとに盛り上がり、掛け声も大きくなっていきました。最終の5回目では学年担任の教諭と希望者の生徒たちで担ぎましたが、希望する生徒の数が多すぎて花棒の取り合いになるくらいの盛り上がり方を見せました。



おみこし体験授業（集合）



おみこし体験授業

事業を通して得られたものや課題

生徒たちは法被姿の大人が数十人登場する中で心配だったと思いますが、主催者側の大人たちも中学生がどれだけ「おみこし」を楽しんでくれるか全く予想できず、大いに心配していました。しかし、生徒たちは私たちの事前の予想を大きく超えて盛り上がってくれました。平日の昼間にも関わらず、生徒たちのためにあつまっていたいただいた数十人の方々には、心よりお礼申し上げます。

近年、祭礼の際に「おみこし」を出せない自治会も少なくありません。この取り組みが将来の「おみこしの担ぎ手」だけでなく、「地域の担い手」になるきっかけとなることができれば、これ以上嬉しいことはありません。「おみこし体験授業」は、中学校の理解が得られる限り、来年度以降も継続して実施していきたいと考えています。



青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例一覧



年度	事例名	場所	取組主体
平成 13 年度	Summer Store-School in 大久保	新宿区	新宿区立戸山中学校 P T A
	「わんぱく天国」における「すみだ四季友遊会」の活動	墨田区	すみだ四季友遊会
	星の会（市民ボランティア）による子育て支援活動	世田谷区	星の会（市民ボランティア）
	父親を中心とした子どもの育成活動【親父の会】	世田谷区	世田谷区立小学校 P T A 連合協議会
	ダンスイン・フェスタ舞祭組	杉並区	Dancin' Festa 舞祭組 (杉並区善福寺周辺)
	合宿通学	荒川区	合宿通学実行委員会 (町会、商店街、青少対地区委員会)
	西伊興龍巳組（親子民舞会）	足立区	西伊興小、西新井中、伊興中、第十四中 ほか
	「夏休み40日学校開放」フュージョン長池	八王子市	NPOフュージョン長池
	小平市すこやかコミュニティ・プロジェクト	小平市	小平市すこやかコミュニティ
平成 14 年度	わんぱくベンチャー2002	新宿区	(社)東京青年会議所新宿区委員会、 新宿区教育委員会
	わんぱく下町っ子祭り	台東区	台東区青少年対策地区委員会連合事業実行委員会
	思いやり ～子どもの光発見活動～	大田区	大田区立蒲田中学校区健全育成連絡会
	子どもに本の楽しさを伝える活動	北区	浮間図書館ブックボランティア、浮間図書館
	中学生・高校生のボランティア育成活動	練馬区	練馬区青少年育成第六地区委員会
	ふれあいフェスティバル 人とふれあい、地域の伝統・文化を知る	武蔵村山市	武蔵村山市第三中学校区教育推進協議会
	「やとっぱら遊びの日」の活動	西東京市	明葉跡地で遊ぶ会
平成 15 年度	子ども支援グループ「でんでん」の活動	北区	子ども支援グループでんでん
	高島平地区小地域ネットワークの活動	板橋区	高島平地区小地域ネットワーク
	丸ごと全部子どもまつり	練馬区	練馬区青少年育成第一地区委員会
	朝のさわやかあいさつ運動	立川市	立川市青少年健全育成柴崎町地区委員会
	サタディコンサート	町田市	町田市青少年健全育成成瀬台地区委員会
平成 16 年度	下町台東の美しい心づくり清川地区連絡会の活動	台東区	下町台東の美しい心づくり清川地区連絡会
	第三いきいき活動	大田区	大田区立東調布第三小学校
	滝五でよいしょ！パート2	北区	北区青少年昭和町地区委員会
	朝の校外清掃の活動	北区	北区立岩淵中学校
	心の東京革命元八王子推進会の活動	八王子市	心の東京革命元八王子推進会
	おうめ子ども情報局の活動	青梅市	おうめ子ども情報局運営協議会
	ななお『土曜のひろば』遊学会の活動	日野市	ななお『土曜のひろば』遊学会
平成 17 年度	尾久地区「あいさつ運動」	荒川区	荒川区青少年対策尾久地区委員会
	原町会地域における「環境美化活動」	荒川区	荒川区立原中学校、原町会
	「むさしのジャンボリー」事業	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会地区委員会
	青梅市親子ふれあい綱引き大会	青梅市	青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会
	新入学児童自画像展	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会



年度	事例名	場所	取組主体
平成 18 年度	地域安全マップ作りを通じたあいさつ声かけ活動	新宿区	新宿区戸塚地区青少年育成委員会
	4校一斉あいさつ運動	目黒区	目黒区第十中学校区地域教育懇談会
	あいさつ声かけ運動防犯パトロール	杉並区	杉並区馬橋青少年育成委員会
	池袋本町プレーパーク	豊島区	池袋本町プレーパークの会
	きたちゃんを探そう ～地域の中で子どもを育み子どもの体験を豊かにする～	北区	北区青少年赤羽地区委員会
	砂川地区あいあいパトロール隊	立川市	立川市砂川地区「あいあいパトロール隊」実行委員会
	あいさつ運動と子ども見守り隊活動	調布市	調布市健全育成推進飛田給地区委員会
	本町第八第一町内会あいさつ運動	福生市	福生市本町第八第一町内会
	東愛宕地区見守り・声かけ運動	多摩市	多摩市青少年問題協議会東愛宕地区委員会
平成 19 年度	おせっかいおじさん・おばさん運動	荒川区	「あらかわの心」推進運動区民委員会
	あいさつ運動（あいさつ標語募集）	杉並区	杉並区高円寺中央青少年育成委員会
	四葉スキー教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	地域ふれあい学習	西東京市	西東京市青少年健全育成「にしはら」
	立川市立第二中学校地区朝の挨拶運動	立川市	立川市青少年補導連絡会二中地区地域別委員会
平成 20 年度	知っている人を増やそう	新宿区	新宿区四谷地区青少年育成委員会
	台東区少年リーダー研修会	台東区	台東区青少年指導者育成者会
	集まれ！おうめっ子	青梅市	集まれ！おうめっ子実行委員会
	おはよう de はじめよう	三鷹市	三鷹市第三中学校区
	「愛の一声」運動	小平市	小平市青少対学園東小地区委員会
平成 21 年度	鶴の木地区「オ・ア・シ・ス運動」の取り組み ～あいさつで心が通う地域の輪～	大田区	鶴の木地区オ・ア・シ・ス運動推進協議会
	「阿佐谷地区」の学校との橋渡しと地域教育力向上活動	杉並区	杉並区阿佐谷青少年育成委員会
	子ども会によるあいさつ運動	荒川区	荒川区レインボー子ども会
	合言葉は「あいさつのまち 徳丸！」	板橋区	板橋区青少年健全育成徳丸地区委員会
	あいさつは世界のあいことば	足立区	足立区青少年対策中川地区委員会
	ソフトボールを通じた健全育成推進の活動	調布市	調布市健全育成推進上ノ原地区委員会
平成 22 年度	夢の島中学生体験プログラム	江東区	江東区青少年委員会
	～笑顔が育む子供の安全～	大田区	蒲田西地区 矢口子ども安全ボランティア 「スマイルネット」
	朝日に向かってチャレンジ 20km	調布市	調布小わんぱくおやじ倶楽部
	「地域のつながりの大切さ」 ～第二育成地域ふれあいひろばの取り組み～	狛江市	狛江市青少年第二育成委員会・ ふれあいひろば実行委員会
平成 23 年度	東京ナイトウォーク	江東区	江東区青少年対策小松橋地区委員会
	「わが町板八小の運動会」 ～地域と学校が力を合わせて実現～	板橋区	板橋区町会連合会富士見支部
	戸塚地区安全・安心マップ「とまっぴ」の作成について ～戸塚地区を「子どもを育てやすい、安全・安心なまち」へ～	新宿区	戸塚地区協議会とまっぴ実行委員会
	地域で育てるジュニアリーダー	世田谷区	青少年松沢地区委員会
	第 30 回三町合同中学生スポーツ大会 「高尾山ナイトハイク」	立川市	三町合同中学生スポーツ大会実行委員会 (曙町子ども会育成者連合会、栄町子ども会連合会、 高松町子ども会連合会)
平成 24 年度	「地域レクリエーション」 ～牛込第一・牛込第三中学校生徒会による企画・運営～	新宿区	新宿区単筒地区青少年育成委員会
	生徒の想い まつりを創る、文花中地域ふれあいまつり	墨田区	文花中地区青少年育成委員会
	親子で農業体験～じゃがいもクラブ・だいこんクラブ～	世田谷区	青少年上祖師谷地区委員会
	西砂川地域ふれあい松明祭り	立川市	立川市青少年健全育成西砂川地区委員会
	「三鷹中央学園の子どもたち」 ～おかあちゃんたちが創る、こどもたちの未来へのかけはし～	三鷹市	みたかスクール・コミュニティ・サポートネット
	子どもたちの食から地域のきずなまで、農業・食育体験教室	青梅市	青梅食育クラブ
	こどもの家オリエンテーリング	調布市	調布市健全育成推進染地地区委員会

年度	事例名	場所	取組主体
平成 25 年度	「目黒区青少年委員会の試み」 ～中高生による駄菓子屋と工作教室の運営～	目黒区	目黒区青少年委員会
	あいさつ運動	目黒区	目黒中央中学校区地域教育懇談会
	栄町・若葉町少健プール	立川市	少健栄町地区委員会、少健若葉町地区委員会
	「共成小地区委員会」～子供と大人、大人と大人の橋渡し～ 一年生下校時付き添い隊・見守り隊	昭島市 清瀬市	青少年とともにあゆむ共成小地区委員会 清瀬市青少年問題協議会第四地区委員会
平成 26 年度	みなとキャンプ村	港区	港区青少年対策地区委員会
	一中学区青少年対策事業 (標語コンクール・意見発表会・巣立ちの会)	三鷹市	三鷹市青少年対策第四・第六・南浦地区委員会
	青梅っ子わいわいフェスタ	青梅市	青梅市青少年対策青梅地区委員会
平成 27 年度	落一育成会スノーツアー ～子供に雪国の楽しさ厳しさを体験させる～	新宿区	新宿区落合第一地区青少年育成委員会
	菅刈キャンプ ～「次世代コミュニティリーダー育成」の実践～	目黒区	目黒区菅刈住区住民会議青少年事業部
	商店街探検・店員体験	町田市	町田市青少年健全育成原町地区委員会
	田んぼ・畑活動	町田市	町田市青少年健全育成小山田地区委員会
平成 28 年度	練馬区子どもフェスティバル	練馬区	練馬区青少年育成第四地区委員会
	いけばな子ども教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	八ヶ岳キャンプ	多摩市	多摩市落合地区委員会
平成 29 年度	深小キャンプ	調布市	調布市健全育成推進深大寺地区委員会
	復興支援 フリーマーケットとおもちつき	小平市	小平市青少年対策二小地区委員会
	横山地区青少年育成ロードレース大会	八王子市	八王子市青少年対策横山地区委員会
	羽村市青少年健全育成の日事業（子どもフェスティバル）	羽村市	羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会
平成 30 年度	中学生対象事業	品川区	品川区青少年対策荏原第三地区委員会
	ふれあいニューイヤーマラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成葛西第二地区委員会
	小学校卒業記念ナイトウォーク	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	もちつき会	あきる野市	あきる野市青少年健全育成五日市地区委員会
令和元年度	牛込第二中学校との連携事業	新宿区	新宿区早稲田地区青少年育成委員会
	農業体験学習（田植え・稲刈り）	大田区	大田区青少年対策新井宿地区委員会
	防災キャンプ	大田区	大田区青少年対策蒲田東地区委員会
	学校プレイパーク	江戸川区	江戸川区青少年育成松江北地区委員会
令和 2 年度 (リーフレット※)	じゃがいもクラブ	世田谷区	世田谷区青少年上祖師谷地区委員会
	【在宅版】みねまち親子木工教室	大田区	大田区青少年対策嶺町地区委員会
	職場体験・動画版	墨田区	墨田区桜堤中地区青少年育成委員会
	一小地域みまもりクエスト	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第一地区委員会
令和 3 年度	文の京こどもまつり	文京区	文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会
	建築家 隈 研吾 氏 講演会	大田区	大田区青少年対策田園調布地区委員会
令和 4 年度	すみだっ子たちの夢支援 ～夏休み企画～親子で楽しもう！えびごリアルクエスト☆	墨田区 品川区	墨田区青少年育成委員会連絡協議会 品川区青少年対策荏原第五地区委員会
	我が町探検！防災ウォーキング	板橋区	板橋区青少年健全育成中台地区委員会
	謎解きゲーム「第八版 北町の刃なぞとき編」	練馬区	練馬区青少年育成第八地区委員会
	CAP(キャップ) ワークショップ	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第三地区委員会
	平和への願いを込めて折り鶴を折ろう	国分寺市	国分寺市青少年育成南地区委員会
令和 5 年度	親子でボールと遊ぼう！	世田谷区	世田谷区青少年砧地区委員会
	小松川平井マラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	城山防災・スポーツフェスティバル	八王子市	八王子市青少年対策城山地区委員会

※コロナ禍により事例集は作成せず

地区委員会等推進モデル事業について

東京都は、地域社会、家庭、学校が連携し、青少年を地域ぐるみで健全に育成する優れた取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として指定し、広く都内各地域に紹介しています。

●概要（令和6年度）

【推進モデル指定条件】

推進モデルは、地域ぐるみで青少年を健全に育成することを目的とした、以下の（1）から（3）までを満たしている活動です。

- （1） 令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日）中に実施した事業であること
- （2） 地域社会（地区委員会、NPO団体、町会、商店会等）、学校、関係機関等と連携を図って取り組んでいること
- （3） 「青少年の規範意識やコミュニケーション力を育むと共に、他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど多様性の意識を育むために実施する取組」で、以下のアまたはイに該当するものであること
 - ア 地域の中で青少年を育てる取組
 - イ 青少年の体験を豊かにする取組

●推進モデルに指定された場合

- ◇東京都が作成する「青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例集」に、取組事例を掲載します。事例集を東京都のホームページにも掲載することにより、取組事例を広く紹介します。
- ◇毎年開催される地区委員会の研修会でも取組事例を紹介させていただきます。

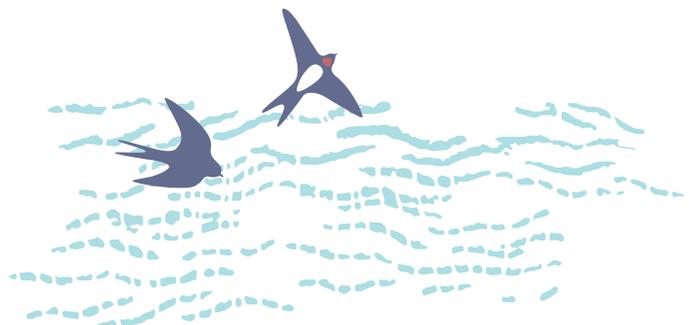
●令和7年度の「青少年健全育成地区委員会推進モデル事業」の募集について

令和6年度に実施した都内地区委員会の取組について、区市町村を通じて令和7年3月に募集依頼予定です。

皆さまの様々な工夫事例をお待ちしています。

【スケジュール（予定）】

- | | |
|-------------------|-------------|
| ・募集 | （令和7年3月～5月） |
| ・ヒアリング | （令和7年6月） |
| ・モデル指定・モデル事例集原稿依頼 | （令和7年7月） |
| ・モデル事例発表 | （令和8年2月） |





参考リンク集

地域における青少年の健全育成事業



若年支援



東京子供支援協議会



地域活動・多文化共生の推進



令和6年度 青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例集

令和7年1月発行

登録番号(6)74

編集・発行 東京都生活文化スポーツ局
都民安全推進部若年支援課
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 03-5388-3098

印刷 株式会社モモデザイン
〒167-0035
東京都杉並区今川三丁目20番10号
電話番号 03-5303-2790



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。